

協力から幸せを

(原文)

高橋 歩花 (12 歳)

東京都

東京都立大泉高等学校附属中学校

私は「全員に平等に幸せを」という価値観を大切にしています。言い換えると、「同じ気持ちになるように」とも言えます。幸せを全員で、悲しみも全員で共有するという意味と、だれか一人だけが幸福に、不幸にならないようにするという意味です。

以前、小学校の体育でバスケットボールをしました。1 チームの人数が少ないものの、ルールは本当のバスケットボールとほとんど一緒で、審判も交代でしていました。私は運動が苦手だったため基本的にはパスをしたり、カットをしたりしていて、あまり役に立っているとは思えませんでした。しかし、シュートした人が、「高橋さんのパスが上手だからシュートできたよ。ありがとう。」と言ってくれて、私もシュートしたかのような気分になれました。とても嬉しかったです。

このように、幸せ、喜びは人に共有することができます。一人で幸せをかみしめるのも良いとは思いますが、多くの人と共有し、一緒に喜んだ方が、幸せが大きくなると思います。逆に、悲しいことも多くの人と共有することで、なぐさめとなり次に進むことができます。

これも小学校でのことです。小学校では、給食の牛乳パックを当番制で洗っていました。しかし、一度だけ午前授業で洗う時間がないことがありました。居残りをして洗わなければいけないため、みなやろうとせず、日直だった男の子がやることになりました。4人でやっても5分以上かかる作業なため、一人でやるとなると30分ほどかかってしまうでしょう。そんな彼を哀れに思った私は、私も居残って手伝うことにしました。すると、他にも数人手伝うと名乗りを挙げてくれて、最終的には6人でやることになりました。帰る時間も、通常と大きな差はありませんでした。

このように誰かの不幸は大勢で協力することで、減らすことができます。もしかしたら幸福に変えることができるかもしれません。また、幸福も同じように、一人だけに偏らないようにすることで、より大きな幸福に変えることができるかもしれません。

このような経験から、私は「全員に平等に幸せを」「同じ気持ちになるように」という価値観を大切にしています。

それは価値観にしては限定的にすぎないか、と思う人がいると思います。しかし、このことはほとんどの場面に適応することができます。幸せな時にはその幸せを他の人に分けます。苦しい時、悲しい時には他の人に救ってもらいます。努力しなければならぬ時は、自分と同じように努力している人の

ことを考えます。このように、この価値観はほとんどの場面に適応します。もちろん、社会問題についても同じです。世界中にいる不幸な人を救おうという考え、全ての国を同じように平和にしたいという考えは、社会問題を解決する上で基本となる、大切な考え方です。その考えも、この価値観なら得ることができます。

この価値観から、私は大勢と協力して生きることが増えると思います。だから、この人と協力しよう、と思ってもらえるような人になりたいです。また、私も自ら多くの人に協力を呼びかけたいです。

また、社会全体、世界全体で協力しあい、「全員に平等に幸せを」「同じ気持ちになるように」という状況になることを願います。